

2012 年度事業報告

1. 会誌の編集発行

第 66 巻、第 2 号～第 6 号および第 67 巻、第 1 号を編集し、発刊した。報文 8、ノート 1、総説 8、解説 15、研究会だより 8、若手会報告 1 の計 41 件を掲載した。前付け・後付け会告を含め、総ページは 428 頁であった。なお、第 66 巻第 2 号から第 67 巻第 1 号における特集の企画テーマは、「津波被害からの農地復興」、「2012 年度日本海水学会第 63 年会講演要旨集」、「海水とバイオフィルム」、「これからの荷電膜の展望」、「西日本の海水科学研究 (3)」と「塩及び海水の分析法及び信頼性向上の最近の展開」である。

2. 年会総会・研究技術発表会の開催

2012 年 6 月 7 日(木)～8 日(金)の会期で、日本大学津田沼校舎・生産工学部 60 周年記念棟において第 63 年会総会・研究技術発表会を開催した。研究技術発表は口頭発表 24 件、ポスター発表 57 件(学術研究 20 件、技術交流 37 件)であった。ポスター発表のうち 19 件が口頭発表との重複発表であり、19 件が 35 歳以下の発表者であった。学術賞受賞講演が 1 件あり、160 名が参加した。また、研究賞 1 件、技術賞 1 件、奨励賞 1 件および功労賞(田中賞)3 件の表彰を行った。

3. 西日本支部の活動

会誌特集号の企画

第 66 巻 6 号(西日本支部特集号)に向け、「西日本の海水科学(3)」の特集号としての企画と出版を行った。

4. 研究会の活動

1) 電気透析および膜技術研究会

① 第 43 回荷電膜コロキウムの開催

2013 年 2 月 14 日、東工大 蔵前会館、講演 3 件、参加者 11 名

② ワークショップの開催準備

2013 年 2 月 15 日(金)、東工大、出席者 5 名

③ 研究会幹事会

第 1 回、2012 年 6 月 22 日、東工大、出席者：7 名

第 2 回、2013 年 2 月 14 日、東工大、出席者：9 名

④ 海水誌「研究会だより」

第 66 巻 1 号、p.46、第 66 巻 4 号、p.229

2) 海水環境構造物腐食防食研究会

① 第 52 回研究会例会

2012 年 7 月 11 日、新日本非破壊検査(株)、講演 2 件、参加者 21 名

② 第 53 回研究会例会(見学会)

2013 年 1 月 23 日、(株)荏原製作所 富津事業所、参加者 18 名

③ 他学会での活動内容の紹介

(社)腐食防食協会 第 61 巻第 5 号 p.202 「国内だより」

④ 海水誌「研究会だより」

第 66 巻 1 号、p.45、第 66 巻 4 号、p.229

3) 環境・生物資源研究会

① 幹事会の開催

第1回、2012年6月7日、日大生産工学部

第2回、2013年3月16日、田中田村町ビル(東京)

② 勉強会(一般参加可能)の開催

2013年3月16日、田中田村町ビル(東京)、講演2件、参加者8名

③ 研究会活動の案内

勉強会会告 日本海水学会 HP(<http://www.swsj.org/>)

④ 海水誌「研究会だより」

第66巻2号、p.106、第66巻5号、p.301

4) 塩と食の研究会

① 研究会の開催

2012年11月30日、小田原市梅の里センター、講演4件と見学会、参加者37名

② 情報誌9号の発刊

③ 幹事会の開催

④ 海水誌「研究会だより」

第66巻3号、p.168

5) 分析科学研究会

① 技術支援、セミナーの実施

民間製塩会社への品質管理分析導入の支援ならびに簡易分析セミナー、参加者13名

② ニュースレターの発行

第13号、第14号を発刊

③ 幹事会の開催

第15回、第16回の幹事会を開催した。

④ 海水誌「研究会だより」

第66巻3号、p.168

6) 海水資源・環境研究会

① 情報収集

海水淡水化設備から排出される濃縮海水からの塩分除去および有用資源回収技術に関する技術動向についての調査

② 研究シーズの探索および研究テーマの策定

ボトルネック対策技術分科会において海水総合利用プロセス構築におけるボトルネックについて検討を実施

③ 海水誌「研究会だより」

第66巻2号、p.106、第66巻5号、p.301

5. 各種委員会の活動

1) 編集委員会

年3回の編集委員会を開催した。第66巻、第2号～第6号および第67巻、第1号を企画、編集、発刊した。会誌の電子ジャーナル化については、J-STAGE システムを利用して、第19巻～第62巻、および第65巻を新たに公開した。論文の投稿件数を増加させるため、投稿規程を改訂し、特集における論文の著者は会員でなくてもよいこととした。また、特集には論文をなるべく含むように企画することとした。

トピックスとして、「リレーエッセイ」を企画し、学会会員の交流を図ることとした。これまで各研究会が年 2 回執筆していた「研究会だより」を各研究会年 1 回以上とし、各巻第 3 号の講演要旨集には、全研究会の概要を紹介するページを新たに設けることとした。

2) 研究委員会

研究会活動のさらなる活性化のため、委員会を 2 回開催し(2012 年 10 月 5 日、2013 年 4 月 12 日)、各研究会の役員各位と活性化の方策について協議した。また、研究会の活動内容を学会会員に広く知っていただき、新規の入会を促すことを目的に、2012 年度に開設した海水学会ホームページ内の各研究会のページに各研究会の概要や入会の方法、活動記録を掲載した。さらに、同様の目的で、海水学会誌に「研究会だより」のページを設け、研究会の概要や直近の活動、会員募集について掲載した。

6. 若手会の活動

1) 「第 12 回若手の集い」の開催(実行委員長：岡田昌樹(日本大))

日時：2012 年 6 月 6 日(水)18：00～20：00

場所：生香園

内容：若手研究者・技術者の交流会(会誌第 66 巻 4 号参照)

参加者：34 名

2) 第 63 年会「第 3 回技術交流ポスターセッション」の開催(実行委員長：三角隆太(横浜国大))

日時：2012 年 6 月 7 日(木)15：35～16：35

場所：日本大学津田沼校舎・生産工学部 60 周年記念棟 6F ピロティ

内容：技術的な交流を目的としたポスターセッション

発表件数：37 件

3) 「第 4 回学生研究発表会」の企画・開催(実行委員長：三角隆太(横浜国大))

日時：2013 年 3 月 7 日(木)、8 日(金)

場所：横浜国立大学教育文化ホールほか

内容：学生による口頭・ポスター発表会、特別講演、交流会、見学会

発表件数：口頭 20 件、ポスター 19 件

参加者数：57 名

4) 役員の増員

小川 襲(ダイヤソルト株式会社)

5) その他

役員会の開催、他団体との連携企画、活動環境の整備等

6) 会員数(2013 年 3 月末現在)

62 名(2012 年 3 月末より 5 名増)

7. 事務改善

ホームページ・学会誌を通じて、日本海水学会の企画行事、投稿規定などの最新情報の提供などの会員サービスに努めるとともに、事務局における事務処理の簡素化、マニュアル化を前年度に引続き進めた。

8. 会員異動

個人会員：入会 34 名(正会員 15 名、学生 1 名、研究室会員 18 名)

退会 26 名(2011、2012 年度退会申出者(除籍者含む)：正会員 21 名、特別会員

2名、名誉会員1名、学生2名)
2012年度末現在 386名

維持会員：入会 1社2口、退会 1社2口
口数減：1社5口、2012年度末現在 45社 346口